

中播磨支部運営委員会

播磨



OH!

～HARIMA～

70号

発行責任者
支部長 富田徹矢
機関誌担当 鴨谷和明



2026年9月発行



支部長挨拶

中播磨支部長

富田 徹矢

兵庫県理学療法士会中播磨支部の皆様におかれましては、日頃より支部活動に多大なるご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。日々の臨床業務やそれぞれの生活がある中、研修会や地域活動、各種事業にご参加・ご協力いただいていることが、中播磨支部の活動を支える大きな力となっています。

また、この春から理学療法士として新たな一步を踏み出された皆様、ご入職おめでとうございます。学生から社会人となり、期待と同時に不安を感じることも多い時期ではないでしょうか。理学療法士として働く中では、学校で学んだ知識や技術だけでは答えが見つからない場面にも数多く出会います。そんな時、一人で抱え込むのではなく、職場の先輩や仲間、そして職場を越えた理学療法士とのつながりを大切にしてください。中播磨支部も、そのような「つながりをつくる場所」の一つでありたいと考えています。

現在、私たちを取り巻く医療・介護業界は、大きな転換期にあります。高齢化が進む一方で、生産年齢人口は減少し、医療・介護を支える人材の確保はますます難しくなっています。また、物価や人件費が上昇する中、限られた社会保障財源で質の高いサービスを維持していかなければなりません。

こうした状況において、私は理学療法士も「専門職として何ができるか」だけでなく、「私たちが関わることで、患者・利用者、そして地域にどのような価値を生み出せるのか」を、これまで以上に考える必要があると思っています。病院で治療すること、介護施設で機能訓練を行うことだけが私たちの役割ではありません。疾病予防、介護予防、地域づくり、就労支援など、理学療法士の専門性を必要とする場所は地域の中に数多くあります。これからの時代は、理学療法士自身がその可能性を広げ、社会に示していくことが重要です。

そのためにも、中播磨支部として「会員であることの価値」をより実感していただける支部活動を目指します。研修会による知識・技術の向上はもちろん、施設や職域を越えた会員同士の交流、若手が相談できる環境づくりなど、「支部に所属していて良かった」と感じてもらえる取り組みを増やしていきたいと考えています。中播磨で働く理学療法士が、職場や経験年数の垣根を越えてつながり、ともに学び、地域から必要とされる存在となる。そのための土台をつくることが、中播磨支部の役割だと考えています。

本年度も、皆様とともにより良い中播磨支部をつくっていければ幸いです。引き続き、支部活動へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。





第1回中播磨支部研修会

医療法人 仁寿会 石川病院 田中匠

令和8年8月5日、中播磨支部Web研修会「リハ室の『動ける』を地域の『暮らし』へ—地域支援事業におけるPTの実践ステップ—」を開催しました。講師には兵庫医科大学の永井宏達先生をお迎えし、地域支援事業の実践についてご講演いただきました。本研修会には定員500名に対し431名の申込みがあり、地域支援事業への関心の高さがうかがえました。

講義では、介護予防事業や地域ケア会議などの地域支援事業について、最新の知見や兵庫県内の実態調査を交えながらご紹介いただきました。地域支援事業に初めて関わる方にも理解しやすい内容であるとともに、既に地域で活動している理学療法士にとっても、地域特性の捉え方や住民主体の支援、支援体制の構築など、日頃の実践を見つめ直す多くの示唆が得られる内容でした。

特に、「身体機能の改善」を目標とするだけでなく、住民一人ひとりの暮らしや社会参加に目を向け、地域全体にどのような支援を残していくかという視点は、病院や施設で勤務する理学療法士にとっても重要な学びとなりました。地域支援は病院外の特別な活動ではなく、退院後の生活を見据えたりハビリテーションの延長線上にあるという考え方は、多くの参加者に新たな気づきを与えたことと思います。

今回の研修会で得られた学びを、それぞれの地域や臨床現場での実践につなげ、地域住民の健康づくりや暮らしの支援に活かしていただければ幸いです。



令和8年度

兵庫県中播磨・西播磨合同研修会

姿勢制御・運動機能を支える

足部・足関節機能の評価と運動療法

森ノ宮医療大学

総合リハビリテーション学部 理学療法学科 講師
トータルコンディショニングサポート Anklist 代表

沼澤俊 先生

2026. 12/5(Sat.)

13:00 – 16:00



足部・足関節の可動域評価は行っている、筋力や機能評価をどのように解釈し、運動療法へつなげればよいか悩むことはありませんか。

本研修会では、大学教員・理学療法士・アスレティックトレーナーとして教育・研究・スポーツ現場・コンディショニングの第一線で活躍されている森ノ宮医療大学の沼澤俊先生を講師にお招きし、姿勢制御・運動機能を支える足部・足関節機能をテーマに、臨床で必要となる評価のポイントと、評価から運動療法へ展開する思考プロセスを実技を交えながらご講義いただきます。

明日からの臨床が変わる、実践的な研修会です。ぜひご参加ください。

現地開催

会

場 姫路ハーベスト医療福祉専門学校 4階 治療室
兵庫県姫路市南駅前町91-6

参加費

無料

定

員 30名 兵庫県内会員のみ
先着順・1施設2名まで（空席があれば追加受付）

申込期日

11月3日

申

込み方法



こちらのQRコードから必要事項を記載し、
申し込みください（Googleフォーム）

ポ

イント認定

登録理学療法士更新 : 3ポイント カリキュラムコード: 174 運動制御
認定・専門理学療法士更新: 3ポイント

一社) 兵庫県理学療法士会 会長 間瀬教史 兵庫県理学療法士会中播磨支部

中播磨支部支部長 富田徹矢

研修担当田中匠

西播磨支部支部長 反橋浩二

E mail : pt_nakaharima@yahoo.co.jp



中播磨支部主催

症例検討会

発表者・座長募集!

あなたの経験が
学びと成長につながる
チャンス!



日頃の臨床経験を発表してみませんか?
内部疾患領域の症例について学びを深める機会です。
若手からベテランまで、皆さまのご応募をお待ちしております!

 日時	2027年(令和9年) 2月7日 日 15:00頃~ ※詳細は決まり次第お知らせします
 場所	ハーベスト医療福祉専門学校
 募集人数	発表者 3名 座長 1~2名
 発表領域	内部疾患・運動器・神経系
 発表形式	口述発表 (PowerPointを用いたプレゼンテーション)
 抄録提出	あり ※詳細は発表者決定後にご連絡いたします
 事前打ち合わせ	運営スタッフ、座長、発表者との 事前打ち合わせあり

応募のメリット

発表者



後期研修 E領域(事例)
1コマ取得!

座長



認定・専門理学療法士
更新点数
10点付与!
※登録理学療法士への
ポイント付与はありません

今がチャンス!

公募受付期間
令和8年
6月15日(月)
令和8年
9月30日(水)

応募方法

下記のQRコードまたは
URLよりお申し込みください

URL
<https://forms.gle/QDVot3yRSbbmHXGF6>



皆さまの積極的なご応募をお待ちしております!
(一社)兵庫県理学療法士会 中播磨支部



中播磨PT交流勉強会 & 懇親会

2026年10月28日（水）

つながりが
可能性を広げる

学び
×
交流
×
つながり

高齢脳卒中に対する 基本的な理学療法評価と介入方針決定までの流れ

外部講師に学ぶ最新の脳卒中アプローチと交流を深める懇親会
新人から管理者まで！今さら聞けない悩みから今後のキャリアまで話せる場です。
登録理学療法士ポイント対象！知識を深め、地域のネットワークを広げましょう！

第1部 勉強会 19:00～20:30



外部講師

兵庫医科大学 准教授
野添 匡史 先生

専門分野

脳卒中リハ／急性期／フレイル
サルコペニア／低栄養／予後予測
身体活動／重症化予防



カリキュラムコード

区分：**674 中枢神経疾患**

第2部 懇親会 21:00～

【よもやま会】

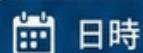


キャリア形成や教育、日ごろの悩みなど
について語り合しましょう！



楽しく
語り合しましょう！

開催概要 & お申込み



日時 2026年10月28日（水）19:00～



場所 ハーベスト医療福祉専門学校
（姫路市本町68-290）



対象 新人から管理者まで歓迎（特に若手！）



費用 【講義】無料 【懇親会】4,000円～5,000円

お申込み方法

QRコードより
お申し込みください



皆さまの
ご参加を
お待ちしております！



第25回姫路市医療介護連携会議

日時：令和8年7月1日

1. 会議の目的・令和8年度の方向性

姫路市医療介護連携会議は、平成26年度から医療・介護関係22団体で構成され、今回で第25回、活動開始から12年を迎えた。2025年に団塊の世代が後期高齢者となり、今後さらに医療と介護双方のニーズを持つ高齢者の増加が見込まれる。こうした状況の中、医療・介護関係者が連携し、高齢者が住み慣れた地域で生活を続けられる支援体制を構築していくことが重要である。

令和8年度は、「心豊かに最期まで暮らせるわが町を目指して、医療と介護の提供体制を整える」

ことを目指す姿とし、特に**「85歳以上の高齢者の多様な課題への対応力の強化」**を課題として設定する。

主な運営方針は、

- ・ 訪問診療の効果的・効率的な提供体制の構築
- ・ 介護予防・重度化予防の推進

の2点であり、「日常の療養」「急変時」「入退院支援」「看取り」の各場面について目標を設定し、各部会で具体的な検討を進める。

2. 令和8年度的主要な部会・委員会活動

① 要支援者（フレイル）対策検討部会

身体的フレイルやMCI（軽度認知障害）等の人への支援について、それぞれの特性に応じた方向性を整理し、地域生活を支援するポイントを検討する。

② 2040年に向けた目標設定部会

2040年を見据えた地域の「目指す姿」「目標」「具体的な取組」を、ロジックモデルを活用して見える化し、関係者とともに策定する。

③ 病院とかかりつけ医の入退院時連携推進部会

「在宅療養者の入退院時連携ルール」の周知・運用状況を確認するとともに、病院とかかりつけ医の意見交換を進める。





④ 人生会議（ACP）推進部会

医療・介護関係者や市民がACPを「自分ごと」として考えられるよう普及啓発を進め、多職種が連携してACPを実施できる体制づくりを検討する。このほか、「在宅医療・介護連携に関する相談対応検証委員会」「研修検討委員会」を継続する。

3. 各団体から出された主な意見

●フレイル・介護予防

フレイル対策については、多職種それぞれの専門性を生かした支援の必要性が示された。薬剤師会からは在宅での服薬支援、歯科医師会からはオーラルフレイルの早期発見・予防、言語聴覚士会からは「食べること」「コミュニケーション」「難聴と認知機能」への対応の重要性が示された。作業療法士会からは、身体機能だけでなく環境調整や関係機関との連携を含めた自立支援が必要との意見があった。理学療法士会からは、身体機能改善においてフレイルを意識したりハビリテーションの必要性は浸透してきている一方、現在の制度の枠組みだけでは対応できない人もいるため、総合事業の中でリハビリテーション専門職が活動する場を広げる必要があるとの意見が示された。また、住民側にも「困ったら介護保険」という考え方だけではなく、自ら介護予防に取り組むことや地域で支え合うという意識を広げる必要性が指摘された。

●総合事業の見直し

令和9年度の総合事業では、既存の訪問・通所サービスに加え、地域のボランティア活動等による訪問・通所などへ選択肢が拡充される予定である。

地域の高齢者が必要とするサービスを適切に利用できるよう、早急に体制を整理していく必要がある。

在宅療養・入退院支援

高齢者の在宅生活では、介護保険サービスだけでは解決できない課題も多く、医療・介護専門職だけでなく地域資源を含めた支援体制づくりが求められている。

身寄りのない高齢者への支援も重要な課題となっており、日常生活支援、入院・入所手続き、死後事務等を含めた支援体制について検討が進められている。

病院側からも、介護保険につながっていない要支援者、緊急入院となるケース、退院後の療養先への移行等について、多職種・多団体との連携を強化する必要性が示された。

また、栄養管理が必要な状態で退院する患者が増加しており、退院後の訪問栄養食事指導や、地域の管理栄養士による継続的な在宅栄養支援も重要となっている。





●ACP（人生会議）

複数の団体からACPの重要性が指摘された。医療・介護関係者自身がACPへの理解を深め、多職種連携の中で本人の意思決定を支援することに加え、市民への普及啓発を進める必要がある。

理学療法士についても、ACPの考え方が十分に浸透していないため、今後研修会等で取り上げていく必要がある。

4. 2040年に向けた姫路市の課題

令和8年度は、第10期介護保険事業計画を策定する年となる。2025年には団塊の世代が後期高齢者となり、さらに2035年には85歳以上人口がピークを迎える。姫路市では85歳以上の介護認定率が**67.7%**となっており、およそ3人に2人が介護認定を受けている。2040年に向けて人口・世代構成が変化する中、医療と介護双方のニーズを持つ高齢者の増加が予想される。

そのため、医療・介護サービスを提供するだけでなく、

「介護予防・フレイル予防」

「在宅医療」

「入退院支援」

「ACP・看取り」

「身寄りのない高齢者への支援」

「地域住民・地域資源による支え合い」

を一体的に進め、高齢者が住み慣れた地域で生きがいを持ちながら生活できる地域包括ケアシステムをさらに深化させることが求められる。

5. まとめ

今回の会議では、令和8年度の部会・委員会活動案が参加団体から承認された。

今後の姫路市では、85歳以上人口の増加を見据え、医療と介護の連携だけでなく、介護予防・フレイル対策、総合事業、ACP、在宅療養、入退院支援などを多職種・多団体で推進することが重要となる。

特にフレイル対策については、医師・歯科医師・薬剤師・看護師・管理栄養士・ケアマネジャー・リハビリテーション専門職等がそれぞれの専門性を発揮するとともに、「介護が必要になってから支援する」のではなく、できるだけ早い段階から高齢者の自立・社会参加・地域生活を支援する視点が、今後さらに重要になる。





令和8年度中播磨支部事業

★2月8日 新人発表会(発表者：40名 聴講者：33名)
症例検討会(発表者：2名 聴講者：45名)
中播磨支部懇親会(参加者：30名)

★2月12日 姫路城マラソン事前勉強会
★2月22日 世界遺産姫路城マラソン2026
救護所理学療法士：27名

★8月5日 第1回中播磨支部研修会
リハ室の『動ける』を地域の『暮らし』へ
— 地域支援事業におけるPTの実践ステップ —

★8月12日 新人発表会直前対策説明会

★9月 播磨OH!70号 発行





編集後記



朝晩めっきり涼しくなってきました。読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋。皆さんはどの秋を堪能されていますか。70号を無事に発行することができました。これも原稿依頼を快く引き受け、支部活動に協力して頂ける先生方のおかげと感謝しております。今後も御協力をお願いすることがあると思いますが、宜しくお願い致します。

中播磨支部単独では今年度より初めての試みの現地開催、Web開催2回の研修会を予定しており、より一層の会員の皆様への学びの場が増えてれば幸いと思っております。初めての試みもあり会員の皆様にはご不便をおかけすることがあるとは思いますが、研修会参加での会員同士の交流の機会を作れるように努力してまいります。今後も問題に対して運営委員一同結束し、取り組み解決してきます。今後とも中播磨支部活動および運営委員を宜しくお願い致します。

機関誌担当 かんざき訪問看護ステーション 鴨谷和明

会員の皆様へお願い

会員の異動動向や新人の就職動向の把握が県士会および支部の運営委員だけでは困難となってきています。近隣にリハ部門開設予定・開設した病院や新人が就職予定・就職した病院はありませんか？

何か情報がありましたら、下記メールアドレスまでご連絡下さい。

中播磨支部事務局 段医院 木村公一

次回発行予定をお楽しみに！

